

■小林富次郎 ライオン株式会社の創業者。熱心なクリスチャンで、“そろばんを抱いた宗教家”といわれる。

こばやしとみじろう

万次郎帰国・1852＝

ペリー来航・1853＝ 1歳：

武蔵国北足立郡与野で、小林家に婿入りし酒造業を営む喜助の三男に生まれる。母はます。

小林家は江戸で公事宿を営んでいたほどの家で、父(旧姓吉崎)も江戸に出て杜氏の技能を身につけ、武蔵国松山で酒造業を始めるも、火災に遭ったため、与野に移って来ている。五男二女を儲けるも、上の二男二女が夭折していたため、兄虎之助と弟には生まれ、

松下村塾・・1856＝ 4歳：

父の郷里の越後國中頸城郡柿崎村直海浜に預けられ、

臍白ながらも、冷静な利口者に育つが、

桜田門外変・1860＝ 8歳：

遣欧使節・・1861＝ 9歳：

教育は寺子屋に通う程度の方、真宗が根付いた土地柄にあつて、信仰心に支えられ、

禁門の変・・1864＝12歳：

父が家督を虎之助に譲って隠居し、帰郷した頃、眼病に罹って失明しそうになったこともあつて、読み書きは不十分なままながら、

薩摩藩士密航1865＝13歳：

この頃には、喧嘩の仲裁を一手に引き受けるほどで、眼病も癒えたことから、

明治維新・・1868＝16歳：

兄虎之助の酒造業を手伝うべく、12年ぶりに与野に戻る。力自慢で村相撲の関取になると同様、働きぶりも豪傑であった。

初の日刊新聞1870＝18歳：

学問のすすめ1872＝20歳：

郷里の馬場家の娘はんと結婚。

明治6年政変 1873＝21歳：

この年、日本で石鹼製造が始まる。

初の民間工場1875＝23歳：

父が死去。酒造業が不振のため、流行の豚と兎の投機的売買に手を出して失敗、酒造業も止めて帰郷。

三つの反乱・1876＝24歳：

兄弟が分業しながら、小林家の再興を期すことになり、兄虎之助は官有林払下げによる事業、第三之助が酒取次業を始め、自らは将来小林家が東京に移住できるよう、上京して新事業を興す役割となる。子宝に恵まれなかったことから、兄虎之助の四男徳治郎を養子に迎え、

西南戦争・・1877＝25歳：

徒手空拳で上京、つてを頼って、堀江小十郎が創業してまもない石鹼工場(鳴春舎)に入ると、

大久保暗殺・1878＝26歳：

「たちまち信頼を得て、販売責任者に昇進、業者の親睦会にも同席を許され、さらに出資者に加えられることになったことから、資金をつくるべく、郷里の家財を処分する看板を立てたのが、最初の広告。

琉球処分・・1879＝27歳：

この年には、石鹼の国内生産が輸入品を上回る。_(鳴春舎)が株式会社になるとともに、支配人となるが、

明治14年政変1881＝29歳：

注文が好不況に大きく左右されて、展望が開けない上、関係していた兄の事業も頓挫してしまい、

秩父事件・・1884＝32歳：

株主総会を開いて、一同合意のもと、解散。(鳴春舎)はもとの堀江小十郎の個人商店に。

内閣発足・・1885＝33歳：

極貧に陥る中、転機を求めて、石鹼の現地生産が有望そうな上海へ赴くと、かねて親交し石鹼製造を始めていた神戸の貿易商(鳴行社)の播磨幸七からの懇願で帰国、結局ともに経営することになり、

帝国大学始・1886＝34歳：

販路を広げるべく、香港に支店を開設するが、本社が他ルートでも販売していたため、猛反発を買い、

国民之友始・1887＝35歳：

閉鎖して帰国。

初の対等条約1888＝36歳：

多聞教会で長田時行より洗礼を受けキリスト教に入信。自らのわずかな蓄えと播磨の協力で、(鳴行社)に夜学校を開設し、石井十次の始めた岡山孤児院の施設建設のために寄付をするなど、社会貢献も始める。

帝国憲法発布1889＝37歳：

_(鳴行社)の扱う日本のマッチの軸木が粗悪で売れないことから、改良すべく、宮城県石巻に官有林や蔵の払い下げを受け、フランス製の機械を設置して製造に着手するが、

帝国議会始・1890＝38歳：

積雪が多くて原木も運べない事態となり、責任の重さに、自殺まで考えているところに、長田牧師から送られた葉書に書かれた聖書の言葉(ヘブル書12章11節)で思いとどまり、両眼を患いながら、帰京。この間、自らの助言で石鹼事業を始め、すでに経営も安定させていた兄虎之助の子与助を迎えられ、その厚意に応えるべく、とりあえず一眼を回復、さらに播磨の助言もあつて、

足尾鉞毒始・1891＝39歳：

*東京神田柳原河岸に、石鹼とマッチの原料取次ぎの(小林富次郎商店)を開設(ライオン創業の地・日)。

大本教・・1892＝40歳：

横浜の(ジャーディン・マゼソン商会)からコプラ(椰子実)を仕入れ、これを精油して石鹼原料として販売するやヒット、再開した軸木事業も利益を挙げられるようになり、

郡司千島探検1893＝41歳：

早くも奉公に出していた徳治郎を呼んで家業に従事させるとともに、与助の会社で製造する石鹼を一手販売すべく、工場を小石川に移転させ、_化粧石鹼_高評石鹼_、洗濯用石鹼_軟石鹼_絹練石鹼_を製造発売、

日清戦争始・1894＝42歳：

この間、ハミガキ市場に着目し、製品開発の研究を開始、本郷教会に転会して、海老名弾正牧師を終生支えることになるとともに、海老名から歯磨き粉の製造方法を聞いたりして、

白馬会・・1896＝44歳：

*粉ハミガキ_獅子印ライオン歯磨_を発売するとともに、全国の新開への広告と実物見本を携帯して巡回、

八幡製鉄始・1897＝45歳：

与助が肺結核で死去。京都博覧会に歯磨きを出品し、進歩賞。

子規句歌革新1898＝46歳：

さらなる販売拡張のために、自ら楽手と口上屋を引きつれた楽隊による宣伝広告を開始、

Bushidou・・1899＝47歳：

大阪支店を開設。_米国の石鹼会社(カーク商会)の事例を参考にして積極的に慈善事業を展開し始め、

ビア/国産化・1900＝48歳：

腸チフスを患ったのを機に、禁酒運動を展開。*ベルマークの先駆となる_慈善券付ライオン歯磨_を発売(以後20年継続)、岡山孤児院は、その寄付をもとに、以降10年、毎年一棟ずつライオン館を建設。

田中正造直訴1901＝49歳：

_店員のために小林夜学校を開設。内務省東京衛生試験所に害否鑑定依頼するなど、品質管理にも配慮。

日露戦争始・1904＝52歳：

胆石を患い一時危篤になるも信仰で克服。_米国セントルイス万国博に_ライオン歯磨_を出品し名譽銀牌。

日露戦争終・1905＝53歳：

永年の希望だった欧米視察旅行。

満鉄発足・・1906＝54歳：

実業組合連合会からの委嘱で、中国・満州・朝鮮を視察し、販路拡大の可能性を見て天津支店を開設。

韓国反日暴動1907＝55歳：

インド旅行、漢口支店、上海支店を開設。_開発研究のために小林試験所を開設し、東京分析所も併設。

アライ創刊・1908＝56歳：

主要原料の炭酸カルシウム製造のため、群馬県に礬部工場を建設。_徳治郎とともに匿名組合(小林商店)を発売させると、

伊藤博文暗殺1909＝57歳：

小林家の菩提寺光徳寺に石碑を建立し、自らの足跡を刻んで、

韓国併合・・1910＝58歳：

徳治郎が名古屋支店を開設、ライオン石鹼工場を設立するのを見つ、創業の地の店舗で没した。

死去の3日後に行われた小林の葬儀の様相を記録した映画フィルム「小林富次郎葬儀」は、歴史資料として国の重要文化財に指定されている(東京国立近代美術館フィルムセンター所蔵)。